

インターネットや電話が使えるようになると共に、次第に元学生、知人等の安否も入るようになったが、予想通り「家族は無事だったが、家はダメだった」、「実家が気仙沼なので、家族の安否が心配ですが、信じてがんばります。」、「山下駅周辺の〇〇君の家は津波で流されたようです。」等々のメールも……。

まだまだ安否の分からない知人、友人がまだまだ多く、安否を知りたいような、知りたくないような、正直複雑な心境…。

そうした中、次の「さすが我が元学生！」と勇気付けら、励まされるメールが届いた。

【 幸、私の家族は怪我もなく無事と言う事を親戚伝いに聞いたから大丈夫と話す、まるで、どの友人も自分の事より、私の家族の事を心配してくれ、涙が出ました。

まだ、連絡が取れない友人が何人かいます。家族とも直接的には連絡が取れていません。

でも、こう言う時だからこそ笑顔でいなくちゃと思います。暗い顔ならいくらでもできます。

笑顔は人を幸せに出来ます。不謹慎かもしれませんが、そうやって少しずつ笑顔が広がって行けばいいなと思っています。

友人が私の家族を心配してくれた心遣い。私もなにか返してあげたいけど、今できるのは節電と、笑顔で日常を過ごす事。

友人や家族に会った時大いに泣こうと思います（笑） 】【

自分も故郷方面のたくさんの同窓生から見舞いのメールをいただいた。同窓生間で安否状況を連絡し合ってくれたよう、また、HP「雑学」を見て初めてメールをくれた友人もいて、何とも嬉しく、感謝！感謝！

遠く離れているだけに、TVの報道は甚大な被災シーンが多いだけに、案じてくれていたものと思う。

「幸せだから笑うのではなく、幸せになるために笑う」のですから、元学生が言うように、こうした時だからこそ笑顔を忘れないようにしようと思う。

兎にも角にも、津波被害の甚大な沿岸部方面に家があり、また勤務している元学生達はまだ若いだけに気がかり。

これからの若者たちだけに、代われるものなら代わってやりたい。